

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100429		
法人名	社会福祉法人 青森令和会		
事業所名	グループホームきらら篠田		
所在地	青森市篠田3丁目20-23		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者と同じ目線に立ち、家庭的な雰囲気の中で家族の一員と感じていただけるように接している。利用者一人ひとりの能力を把握しており、日常生活の中で発揮できる機会を作り、利用者同士が助け合って生活できるよう見守っている。また、地域行事に参加したり、地域住民にホームの行事に参加していただき、ホームの理解を深めてもらっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開設したグループホームで、町内会活動等を通して地域住民との良好な関係が築かれており、3年前に現在の法人に引き継がれてからも良好な関係は継続している。コロナ禍により交流の機会は減っているものの、以前は町内会長や民生委員・婦人部長が運営推進会議に出席するほか、地域住民が避難訓練やホーム主催の行事に参加する等しており、災害時等は協力が得られる体制となっている。ホーム独自の理念を作成し、職員は理念に沿って、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく安心して生活できるケアを心がけている。状態悪化時は、協力医療機関や訪問看護師の指導・支援を受けながら、できる限り看取りにも対応していく方針である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念を唱和し、理念を理解するとともに実践に繋げるよう努めている。	「地域とのつながりを大切に」という内容を盛り込んだホーム独自の理念を作成しており、事務室や各ユニットホールの目に付きやすい場所に掲示している。朝の申し送り時に理念を唱和する等、全職員共有し、理念に沿ったケアの実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回地域に広報紙を配布し、ホームを理解していただいている。現在は、新型コロナウイルスの影響のため地域との繋がりを持つ機会をあまり設けることができていない。	2ヶ月に1回ホームの広報誌を回覧板に入れる等し、ホームの理解が得られるよう取り組んでいる。コロナ禍以前は、町内会の行事に参加するほか、ホーム主催の納涼祭に地域住民を招待したり、避難訓練に参加してもらう等、様々な交流の機会があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙を作成したり、ホームページでホームの状況等をいつでも見られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルスの影響のため運営推進会議の中止が続いているが、関係者にはアンケート用紙を配布し、意見をいただいてサービスの向上に繋げている。	コロナ禍のため中止としているが、2ヶ月に1回文書で利用者の生活状況や行事・研修等活動報告をしている。メンバーから意見をいただくため、アンケートを一緒に送付し、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市に提出し、意見を聞いたり、意見があれば改善に努めている。	市の担当課とは日頃からメールや電話を利用して情報交換を密に行っている。運営推進会議の議事録や自己評価・外部評価の結果を提出する際、意見やアドバイスをいただけるように直接持参しており、協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、委員会の報告をする機会を設け、ユニット内で共有して身体拘束をしないケアを目指している。また、年2回内部研修を行っている。	3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催している。また、身体拘束の指針・マニュアルに基づいて年2回勉強会を行い、全職員が理解を深められるように取り組んでいる。管理者・職員ともに身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行う場合に備えて同意書や記録を残す体制としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員が高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。虐待を理解し、虐待のないケアの実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度等の理解をしている職員はあまりいない。研修等で職員が学ぶ機会を今後も設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者から契約内容や重要事項等について一つひとつ説明している。不明な点があれば都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置し、家族からの意見や要望があれば改善するように努めている。	利用者が遠慮せずに話せる関係作りを心がけ、必要なときは1対1になる機会を作ってゆっくり話を聞いている。家族面会時や電話連絡の際は、利用者の体調や生活状況等を報告しながら意見が聞けるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回、職員会議で職員同士自由に意見交換をすることができる。また、数ヶ月に1回、管理者と個人面談で話をできる機会を設けている。出された意見・提案は、できるだけ業務に反映させ、職員が働きやすい環境になるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や日々の就業実績を通じて、職員の個々の能力を把握し、働きやすい職場環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を把握し、研修に参加してもらいたいと考えているが、現在は新型コロナウイルスの影響により外部研修の参加を控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと月1回会議を行い、サービスの向上を目指しながら改善している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前見学を行い、不安な事や要望を聞き取っている。入居後もコミュニケーションを図り、ニーズを把握しながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人や家族から話を聞き、必要なサービスを見極めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションの中でニーズを見極め、スタッフ間で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能を把握し、本人に合ったサービスを提供している。また、共に生活する一員として関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に情報を共有し、共に支え合う関係作りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄りやすい雰囲気で見えられるように接しているが、現在は新型コロナウイルスの影響のため面会を制限している。	家族や友人・知人の面会を積極的に受け入れていたが、コロナ禍で面会を制限せざるを得ない状況であるため、家族には毎月写真と一緒に近況報告の手紙を送っている。馴染みの美容院への送迎や電話のやりとりをお手伝いする等、これまでの関係が途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り居室内にこもりきりにならないように、声がけや支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて支援をしたり、情報提供や相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からニーズを把握し、ケアに繋げている。	担当職員が中心となって思いや希望の把握に努めており、表情や言動から察することができるよう取り組んでいる。また、家族からも面会時や電話時等に情報を得られるよう働きかけており、申し送りや連絡ノートを利用して職員同士で情報共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣、環境等をヒアリングし、これまで生活してきた環境とあまり変化がないように支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、本人の生活に合わせよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有し、その人が必要なケアを把握した上で介護計画を作成し、実践に繋げている。	日々の観察や会話を通して利用者の希望を把握している。また、家族から面会時や電話で意見を聞いて、一人ひとりの希望や状態に合った個別の介護計画を作成している。状態変化等で必要になったときは、随時話し合いを行って計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、それを共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの支援にとらわれず、様々な意見を取り入れ、チームで柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、地域の中で暮らせる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切に、入居後も希望があれば受診対応をしている。	入居時に協力医療機関による月2回の往診が利用可能であることを説明しつつ、入居後の受診について話し合っている。受診はホーム職員が対応しているが、定期外受診が必要になったときは家族と相談して、必要時は家族にも同行していただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診、往診時に状況の報告をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし、入院中も医療機関や家族との情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、早い段階で主治医、家族と話し合いの場を設け、ケアの方向性を決め、職員間で共有している。	看取りの指針・マニュアルを作成し、入居時ホームとしての方針を明確に説明している。入居後の状態変化に応じて、主治医を含めて話し合いをして意思統一している。できる限り看取りに対応していく方針であり、24時間対応可能な協力医療機関の医師や訪問看護師との連携を図り、職員が不安なく対応できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、内部研修等を行っていつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行っており、全職員が災害時に対応できるよう取り組んでいる。	緊急時の連絡網と避難マニュアルを作成している。日中・夜間・水害を想定した避難訓練を年3回行っている。コロナ禍前は、運営推進会議の議題に取り上げ、地域住民も訓練に参加していただいていた。災害発生時に備えて、水とレトルトのご飯・副食と石油ストーブ・カセットコンロ等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応には十分に気を付けている。言葉の理解が困難な場合は、理解しやすい言葉がけや表現を心がけている。	年1回法人全体で外部講師を招いて接遇の研修を行っており、声かけや対応の仕方には十分注意をしている。不適切なケアが見られたときは、管理者がその都度注意して改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、自分で選択できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを尊重し、タイムスケジュールにとらわれず、自己決定を尊重している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選択できる利用者以外は、季節感や本人の好みを取り入れながら職員が選んでいる。また、身だしなみには十分気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、定期的にメニューに反映している。また、季節感が感じられる献立に努めている。	各ユニット1名ずつ給食委員を決め、嗜好調査や残食確認を行って献立を作成している。また、週1回はお好みメニューを取り入れる等の工夫をしている。苦手な物等には、代替品を用意したり、身体状況に合わせて食事形態に配慮する等、全ての利用者が食事を楽しみつ、適切な栄養を摂取できるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて工夫している。食事摂取量が少ない場合は、補食等をして健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけをしている。必要に応じて介助し、口腔衛生に努めている。また、義歯は毎日消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	定時および個々の排泄パターンに合わせて声かけし、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、その時々体調や状態変化に応じて、職員間で排泄用品の変更やケアの方法等を話し合い、個々の状態に合わせた排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分補給等に配慮し、可能な限り自力での排泄ができるように工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間を定めているが強制はしていない。希望に応じて、時間や日にちを変えて対応している。	土・日以外は毎日入浴できる体制となっており、1人週2回は入浴するようにしている。身体状況によってシャワー浴にしたり、職員2人で介助する等安全に配慮している。また、熱い湯が好きな利用者には1番最初に入浴してもらう等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の利用者には不安を取り除く声がけや対応をし、安心して眠れるよう環境整備を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握した上で、その人の健康状態を確認しながら柔軟に対応している。状態の変化があった場合には、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、楽しくホームで生活できるよう支援している。また、外出支援でドライブに出かける等、気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響のため、外出はドライブのみの対応としている。また、外泊等も制限している。	利用者との会話を通して行きたい場所を把握し、身体状況等を考慮して負担なく安全に外出を楽しめる方法を検討している。現在はコロナ禍のため、車に乗ったまま景色を楽しんでもらう外出行事を企画したり、屋内でも季節を感じられるよう工夫したレクリエーションや行事を企画し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理している。希望があれば本人が管理することも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族へ電話をしたり、お手紙を送る等している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁装飾や室温管理をし、居心地の良い空間作りをしている。	季節に合わせた装飾をしている。また、冬は全館床暖房で適切な温度管理をし、乾燥対策として加湿器を利用して湿度確保に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士の共有空間を設けている。1人になりたいときは居室で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は今までの生活で使用していたものや使い慣れた物を使用し、心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時に馴染みの物を持ち込んでいただくように伝えている。タンスやテレビ、位牌・遺影等、様々な物が持ち込まれている。持ち込みが少ない場合は、利用者と担当職員とで相談して安心して過ごせるよう居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものを置かず、場所が分かりやすく目印やはり紙等をし、工夫している。		